



大正の栄華が忍ばれる石積み（本文中に関連記事があります）

目次 contents

- ・滝野温泉“ぼかぼ”がオープン 2
- ・温泉を使った介護予防拠点施設
「ふれあいプラザさるびの」がオープンしました 4
- ・石積みに時代や地域性を読む 6
- ・大連での宅地開発に参加しました 8
- ・まちづくり交流フォーラム研究集会“2000 in MIE”が
開催中です 9
- ・福祉の住民参加で分権に挑戦するまち 10
- ・うまいもの通信 11
- ・まちかど 12

滝野温泉 “ぼかぼ” がオープン

〔大阪事務所 / 倉本 恒一〕

10月7日に滝野温泉「ぼかぼ」がオープンしました。オープン10日で延べ8100人、平均810人/日の入浴客とのことであり、計画の年間10万人(平均約330人/日)に対してまずまずのスタートです。土、日曜日が1000～1200人、平日550～600人とのことで特に平日の入浴客数が予想以上に多いようです。

いつもはにこやかな受付嬢の笑顔がオープン3日間は緊張していました。電話で場所の問い合わせも多く、近辺の人で播磨中央公園を知っている人には、案内は簡単ですが、神戸や姫路方面など遠方から来られる客も多く、電話での案内に四苦八苦されていました。

滝野町は、中国自動車道の滝野社インターがあり、大阪市内から1時間ちょっとで行けるところです。町域の1/5を播磨中央公園が占め、また町内を流れる加古川には闘龍灘という奇岩怪石の名勝地もあり、町は公園都市として整備を進めています。

播磨中央公園の中心にある五峰山ごほうは大部分が自然のまま、町民の心のシンボルとして残っています。その山の裾野に温泉が湧き、温泉施設ができることに町民の期待が大きかったことは、完成してからの感想からもうかがえます。

温泉施設は、谷を挟んで五峰山を正面に眺める位置に浴室と露天風呂が配置され、浴室から一段下がった露天風呂の上から山の緑、



建築平面図

紅葉を眺めながら湯に浸ることができるのが特色のひとつです。

浴室は、五峰山を象徴した山の湯と、闘龍灘を象徴した川の湯のそれぞれ異なったテーマの温浴施設で構成されています。山の湯は木の香りのする浴槽と室内空間でログハウス、サウナ、寝湯、水風呂、屋外に洞窟風呂、樽風呂などのある露天風呂があります。川の湯には自然石が敷き詰められた河原湯、うたせ湯、源泉風呂、外に滝風呂、屋形船の形をした蒸し風呂、川湯などがあります。

プランはほぼプロポーザルコンペで提案した原案に近い形で完成しています。少し変わったのは、当初レストランを独立して設けていたのが、予算の関係でロビーと休憩室の一角に喫茶コーナーとして小規模な厨房を設け、レストランは将来増築することになりました。

しかし現場が進行する段階で、喫茶コー



五峰山に向かって浴室が配置されてる



浴槽からのながめ



山ノ湯露天風呂



川の湯露天風呂

ナーで軽食も出せるようにするということになりました。厨房の大きさを変えることができなかつたためメニューがうどん程度の限られたものになるので、どのように展開するか心配でした。しかし、オープンした“味処ひの川”は、闘龍御膳をメインメニューにひの川うどん、おでん、バイキングと特色のある多彩なメニューになっています。中でもバイキングは野菜の煮物、惣菜を多種類用意され、量り売りなので好きなものをちょっとずつ組み合わせることができます。またバイキング式で、自分で取ってレジで清算するだけなので、注文を聞いてから出す料理に比べ客を待たせることがありません。ビールのつまみにも合い、ヘルシーなのでお年寄りや若い女性にも評判がいいです。惣菜類は自家製のものを持ちこむので狭い厨房でもこれだけのメニュー展開ができたのだと感心しました。

温泉施設づくりでは施設内容はもちろんの

こと、みやげ物や食事メニューなどのサービスにその地域独自の魅力がでることが重要で、それにはまち全体での取組が反映されてきます。計画段階や工事に入ってからでも、まちの人々へそうした取組に参加してもらい、やる気の環を広げていこう議論をするのですが、都市化の進んだまちでの“まち起し議論”はその段階ではなかなか現実味を帯びないことを感じていました。しかし、滝野町では運営体制が決まってから意気込みはがらっと変わったように思います。施設に対しても、運営に対しても真剣さが加わり手厳しい指摘を受け、あわてて工事手直しも行われました。それでもスタートして食事メニューのように独自のサービス運営が展開されるようになったことが何よりもよかったと思います。

お問い合わせ：滝野温泉ほかば
 兵庫県加東郡滝野町下滝野 1283-1
 滝野町ふるさと振興協会 TEL.0795-48-1126



小さい厨房で豊富なメニューを提供



ロビー浴室入口と土産展示コーナー

温泉を使った介護予防拠点施設「ふれあいプラザさるびの」がオープンしました

〔大阪事務所 / 高坂 憲治〕

本誌 NO. 95 号でもお伝えした三重県大山田村の温泉「そうぞの森さるびの」は平成 11 年 4 月のオープン以来、1 年半で、50 万人を超える人が訪れて、賑わいを見せています。予想を上回る人の波で、当初は戸惑い気味の職員も、今では、様々なイベントを実施し、レストランのメニューも職員一体となって考案するなど、その努力とやる気が「さるびのファン」を根づかせています。

その「さるびの」では、オープン当初から温泉を利用した「おおやまだデイサービスセンターさるびの」を併設、「さるびの」の運営主体として、社会福祉協議会を含めた「大山田温泉福祉公社」を設立して交流と福祉の運営を行ってきました。

同センターには元々、お年寄りや、身体の不自由な人にも、皆一緒に温泉を楽しんでもらいたいという思いから、施設全体への手摺りやスロープ、車椅子でも利用できるトイレを各階に設置するのももちろんのこと、家族の介助があれば温泉に入れるという人のため

の家族風呂「木の花湯」や温泉を使った機能回復のためのリハビリやアクアエクササイズができる「ひょうたん湯」も備えています。

この温泉を利用した、デイサービスセンターに 1 年通ったお年寄りの中には、6 年間車椅子を手離せなかった人が自力で歩けるようになった人もいます。また、週に 1 度のデイサービスをたくさんのお年寄りが心待ちにしているということです。社会福祉協議会では、1 人でも多くの人に元気で過ごしてもらいたいと、定員を 8 人から 20 人に増やし、サービスの充実を図るため、この度、介護予防拠点施設「ふれあいプラザさるびの」を増築しました。

「ひょうたん湯」で良質の温泉を楽しみながら歩行訓練などのリハビリを行った後、約 60 帖程の床暖房を施したカーペット敷きの広間で、大山田自慢の山菜や手作りこんにやくをふんだんに取り入れたお弁当を食べ、昼寝をしたり、創作活動を行ったりして、ゆったりと過ごせるようになっています。部屋のレイ



介護予防拠点施設「ふれあいプラザさるびの」全景



竣工式

アウトを利用形態によって変えることができるように、畳は移動できる置き畳とし、間仕切りも極力なくして家具やカーテンで仕切るようにしました。

「さるびの本館」とは渡り廊下でつなぎ、特別な入口は設けず、誰もが「さるびの」の玄関から出入りできるようになっています。ただ、車椅子を使用しながらも車を自分で運転し、なおかつ他のお年寄りの送迎までして下さる利用者の方が、車で近くまでアプローチできるように、外からのスロープと、自動ドアも設置しました。

この温泉の愛称「そうぞの森さるびの」の「そうぞ」とはこの地方の方言で「皆」という



「さるびの」リハビリ浴室



デイサービス事業

意味です。この森を「みんなの森」として、大山田村民の知恵で「創造的に運営していく」という意味が込められています。職員はじめ、村の人達の小さな努力と大きな努力が重なって、その願いは今後も膨らんでいくことでしょう。

お問い合わせ：そうぞの森さるびの
三重県阿山郡大山田村大字上阿波 2953
大山田温泉福祉公社

TEL 0595-48-0268

営業時間：午前10時～午後9時

休館日：毎週火曜日（火曜が祝日の場合は営業。但し、翌水曜日が休館）



図出典：パンフレット

石積みに時代や地域性を読む～白壁界隈の町並み探検から

〔名古屋事務所 / 尾関 利勝〕

石積みに大正の栄華を忍ぶ

表紙写真は近代建築住宅群が今も多数残る名古屋市東区白壁・主税町・榑木町界隈の一角、創建当初は紙問屋経営者の住宅で、今は料亭として活用されている「加茂免」の築地塀の基礎にあたる石積みです。

直径50～60cmの川石の外周を現場で積みながら六角形状に削り、隣り合った石が隙間無く接して積まれたのが特徴です。下段には比較的平板に近い石を置き、徐々に丸みを帯びた石を積み重ね、上段では築地塀の布石を水平に載せるように上部の平らな比較的大きめの石を積んでいます。全て現場で積みながら施工する優れ技で、木曾川流域の尾張地方でよく見られる石積み方法です。時期は^{たがね}鑿などの石工道具が発達した大正頃の施工と見られ、今はかつての技を持つ技術者も少なく、川石の採取が規制されているため、ほとんど作れないということでした。

近代を先駆けるロマンを伝える町並み

ここは尾張藩中級武士が住んだ平均600坪



料亭加茂免（旧中井家住宅）

程の武家屋敷町で、明治以後、武家の没落と入れ替わりに陶器・紙の貿易商や近代工業の起業家達に移り住んだハイカラ住宅の町でした。電力事業をビジネス化すべく名古屋に来た福沢桃介の後を追って、日本最初の女優と言われた川上貞奴が住んでいた双葉御殿(解体保存)もありました。トヨタグループの祖、豊田佐吉翁一族もここに住まいを構え、ソニーの創業者盛田さんも一時ここに住んでいました。後にノリタケをはじめ陶器やセラミック産業の企業群を構成する森村組の最初の工場もこの付近から始まりました。ここは名古屋だけに止まらず、日本の産業近代化を先駆けた起業家達が国内各地から集まり競って暮らした近代ロマンの夢の跡なのです。

塀と見越しの緑に屋敷を見る町並み

この町並みは街道筋や商人町などの町屋型とは異なり、600坪程の敷地に庭と屋敷を構え、周りを塀で囲むのが特徴です。そのため通の景観は必然的に塀と見越しの緑に屋根を見る町並みになります。一歩中に入れば都心近くにしては静寂な庭の屋敷林、これに囲まれた和風建築に洋館の応接間を付けたハイカラ住宅、庭や座敷脇に茶席を持つ和の空間に西欧化を取り込む暮らし向きが伺えます。

当時の都市型ライフスタイルへの転換を予



塀と見越しの緑

期させる戸建て集合住宅、後の京都大学建築学科創設者となった武田五一設計になる春田文化住宅も残されています。

町並みの保存と苦悩

この地区も他の町並みと同様に、今、保存の危機にさらされています。住宅地であるだけに、商業化して経済効果を得やすい地区とは異なり、新たな利用転換も難しいのです。

加えて、この地域は都心に最も近い便利なお屋敷街であるために宅地の路線価が高く、一般の市街地と異なり、幹線道路に面した表宅地よりも区画道路に面した裏宅地の方が評価額が高いのです。敷地が広いこともあって相続税額も高額となり、結果的にマンション化せざるを得ない状況で、相当数のお屋敷が既にマンション化してしまいました。残したくても残せない葛藤に所有者の皆さんが苦しんでおられるのが実情なのです。

町並み保存の応援団・白壁アカデミア

失われ行く名古屋の「ふるさと原風景」の一つであるこの町に愛着を持つ有志が集い、新しい街の活用方法を「現代の私塾・都市の知の交流サロン」と位置づけ、その実験として「市民がつくる市民塾・白壁アカデミア」を始めました。アルパック名古屋の所員も参加、近代建築と町並み、暮らしと環境、技術と文化など様々な自主講座を多くの有志や地域住民と一緒に進めています。その一つが研究講座「手の知」で、名古屋城と本丸御殿築城に始まる匠の文化都市名古屋のルネッサンス議論の中から技の構成原理を「素材・道具・人の手」と捉え、技の発達ソフトを「手の知」と位置づけて、様々な側面からこれを実証的・体験的に考察しようとする講座です。その一

こまとして白壁界限の検証で見つけた一例が表紙写真の石積みなのです。

足下の石にも時代の年輪がある

今の町並みには敷地割を除いて、僅かに残された門の他は尾張藩時代の名残は見られません。建物や庭は大半が明治以後のものなのです。ところが道から玄関に入る側溝のふた石やその両端の抑え石に、しばしば共通するデザインの古い石が使われています。表面仕上げの加工程度や摩耗の状態から石の古さが推定できるのです。そこ彼処に武家屋敷時代とおぼしき石が見つかります。即座に当時も側溝があったのだろうかと言う疑問の声がありました。何時だって雨は降ったのですから排水をされていて当然です。家作禁令ではなくとも、武家屋敷時代にもここは一定の景観コントロールがなされていたのだらうという推論に落ち着きました。まるで「少年探偵団」が推理をしているような気分で、町並み探検がとても楽しくなってきます。

大半が明治・大正・昭和戦前と想定される中で、他の塀の土台となる石積みにも積み方の素朴さから明治以前とおぼしきものが発見されます。建物の町並みは近現代でも、これを支える足下に武家屋敷時代の名残が遺されているのです。こんなことが発見できるから町並み探検はやめられませんね。



玄関側溝のふた石

大連での宅地開発に参加しました

〔京都事務所 / 西田 昌治〕

8月に宅地開発のサポートとして中国の大連市に約3週間訪問しました。

今回のプロジェクトは、ニュースレター102号でも紹介していますが、大連新型企業集団(民間デベロッパー)が開発主体となり、旧満州鉄道の社宅であった地区(楓林街)を高級住宅地及び商業店舗として開発するものです。

地域の現状は、個々の住宅を見ると老朽化していますが、まちは緑豊かで閑静な住宅地を形成しています。この新型企業集団は、日本でいう公团的性格の組織が独立し、民間会社となったことから、少し古い体質が残っています。例えば、週休2日が一般的になっている中国の現状に比べると休みが週1日と少なく、就業時間も朝8時から夕方6時までと良く働く会社です。現場では夜中の1時や2時まで、工事をしていることもあります。今回の設計については、日本の建築家と中国の設計事務所及びカナダの建築家による3者に提案を求め、その中から一番良い案を採用するという形がとられたため、当初検討していた「日式」のコンセプトから少し外れた、継ぎはぎ的な街並みになってしまいました。

開発のスピードは、日本に比べると想像ができないくらいの早さで進みます。例を挙げ

ると、開発地内の既存宅地(約500戸)の立退き作業が完了するまで約1週間程度、その後建物の解体に2週間といった具合で更地にするまで約1ヶ月程度で完了します。しかし、そこに住んでいる人全てが同意することではなく約1~2割の人は、立退きに反対するケースがあるそうです。この辺の住民感情は、日本と共通しているところがあると感じました。施工面については、バックホウなどの重機はほとんど使わず、人かい戦術で工事を進めるため現場は、いつも人で溢れています。

大連の街の様子を少し紹介します。街を歩く人々のファッションは、ほとんど日本と変わらずスタイルが良いがカッコ良く見えます。休日は、ショッピングセンターなどに人が集まりウィンドーショッピングなどを楽しまします。若い人のデートスポットとしては、マクドナルドやケンタッキーなどが人気です。中国の物価は日本の1/10程度なので、1000円あれば1週間生活できる感じです。ちなみに、70円程度でファーストフードの中華料理であれば腹いっぱい食べることができます。また、朝や夕方には、公園や広場に若い人から老人まで大勢の人が集まり、ダンスや将棋、太極拳などを楽しんでいます。観光スポットとしては、動物園(パンダがいる)、棒水島(要人の避暑地)、東洋一広い星海広場や毎週土曜日に東本願寺で開催される京劇などがあります。



工事中の楓林街の街並み(5日後に、完成しました)

また、日本と同じように携帯電話の普及も進んでおり、ほとんどの人が携帯電話を持っています。通話範囲も中国国内であればどこでもつながる感じです。日本よりも通信やIT分野の基盤整備は充実しているかもしれません。

大連で一番強く感じたことは、経済特区の指定を受けている大連市は、日本以上に資本主義的要素が強いと思いました。これから、中国に行かれる機会がありましたら、肌で中国の発展を感じてみてください。

また新型企業集団は、日本向けのパンフレットなどを作成し、日本でのビジネスチャンスも検討しているようなので、向こうで商売を考えている人がいましたら、大連での物件購入も考慮してみたいはいかがでしょうか。

「まちづくり交流フォーラム研究集会」2000 in MIE」が開催中です

〔名古屋事務所 / 福井 秀樹〕

9月3日、三重県四日市市で「まちづくり交流フォーラム研究集会 in MIE」のオープニング集会が開催された。三重県内6カ所の会場をテレビ会議システムで結び、フォーラムの開始が宣言された。ここに3ヶ月間、三重県内26会場で開催される研究集会がスタートした。

「まちづくり交流フォーラム」はまちづくりに関する各地・各領域での市民団体、NPO等の交流と「21世紀のまちづくり」を提言するため、1998年有志により旗あげされた3年間限定の組織である。各年のテーマを「交流、討論、提言」とした研究集会を愛知、岐阜、三重の順で開催し、成果をまとめる。1998年の愛知集会では600名が、昨年の岐阜集会では17会場で4000名の参加があった（岐阜県ではこれによって交流が促進され、NPO

センター結成に向けた動きに発展している）。今年の三重集会は県庁NPO室の協力を得て、県内各地を結ぶテレビ会議システムを利用し研究集会への参画を呼びかけた（遠方地域や、車椅子利用の方などから、津市まで行かなくてもすむと好評であった）。既に交流は充分とする地域、組織もあったが、東海三県での交流が促進されることなどから活発で多様な市民活動を反映した26もの分科会が立ち上がった。分科会のテーマは「中心市街地の活性化」「歴史・文化・環境を活かすまちづくり」「広域のまちづくり」「NPO」「農山村の活性化」「地域防災」「子供とまち」「地域メディア」「海と環境汚染」をはじめ、20ほどあり、3年間継続のテーマもあれば、三重県の事情や社会潮流の変化をうけた新たなテーマもある。開催地は、それぞれのテーマの受け皿となる団体の活動地がこれにあたり、県内全体に分布している。

現在、交流フォーラムは三重県各地で開催中であり、各分科会では新たな交流、ネットワークが生まれている。この号が発行される頃はもう終盤になっていると思われるが、12月3日の総括集会まで、毎週末どこかで分科会が行われているので、是非新たな交流を行い足を運んで頂きたい（開催に関する詳しい内容は<http://www.mienpo.net/>（三重県NPO室）参照）。



第10分科会「よみがえれ農山村」（飯高町）

アルパック名古屋ではまちづくり交流フォーラム設立当初から事務局として、また、2つの分科会の実行メンバーとして関わってきた。この3年間で市民活動を取り巻く環境は大きく変わり、この活動を通して年々その盛り上がりを感じる。今年の三重集会に大いに期待したい。

福祉の住民参加で分権に挑戦するまち

秋田県鷹巣町

〔大阪事務所 / 大河内 雅司〕

鷹巣町は秋田県の内陸部にある人口2万2千人、若者の流出、高齢者の増加に悩む、典型的な地方のまちでした。しかし、9年前の岩川町長就任をきっかけに、高齢者福祉に挑む秋田の勇として、全国的に注目されています。地方分権は地方自治の将来像を決める重要なテーマです。福祉の住民参加で分権に挑戦する鷹巣町を紹介します。

住民参加なくして地方分権はなし

岩川町長は在宅介護で悩みを抱える住民の話聞いて回り、高齢者福祉を変えることを公約しました。町長はデンマークで福祉施策や分権社会のあり方を学び、鷹巣町が変わるきっかけは住民参加にあると考えていました。鷹巣町の住民参加のスタートにおいて、町長がきっかけづくりを担いました。

住民ワーキンググループと町長のリーダーシップ

町長は住民参加を仕掛けるべく、デンマークの視察報告会を行い、次年度には「福祉のまちづくり懇話会」を設置、その専門部会として住民によるワーキンググループを立ち上げました。町の呼びかけに60名の住民が集まり、6つのグループに分かれて介護に悩む家庭を訪ねて話を聞きながら要望を把握しました。

住民参加を成功させる鷹巣流の手法

グループはそこで集まった80の要望を、(1)すぐにできること、(2)少々工夫すればできること、(3)予算化しなければできないことに分類し、できることは自ら実践し、予算化が必要なものは行政に提案しました。活動を通じて行政とのパートナーシップを築くと共に、目標を実現できた喜びと、まちを変えていけるという実感を原動力に活動が続けられました。町長が投じた一石を住民が受け止め、現在は10のテーマで150名が活動するまになっています。

住民参加で分権を担う人づくりをする

鷹巣町にも問題がないわけではなく、政治の世界では福祉推進派と反対勢力が拮抗しています。政治の主導権を握るために、ワーキンググループが自ら議員を擁立しようとしています。また、主力となるメンバーが固定化しつつあり、活動が停滞気味のグループもあるということで、活動の活性化が必要になっています。

鷹巣町の歩みは、住民参加が住民や行政を鍛え、分権を担う人を育てることを教えてくれます。地方分権という時代の転換期を迎えるなかで、我がまち流の住民参加によって分権を担う人づくりを進めていくことが求められており、そのノウハウを鷹巣町に学ぶことができます。



町公社運営の老人保健施設ケアタウンたかのす
職員：入居者＝1.3：1（国基準は1：3）、居室面積は20㎡（国基準の2.5倍）、小集団介護（ユニットケア）を実現しています。第2期工事で授産施設、シルバーハウジング、一般住宅の建設が計画中です。

チェリモヤゼラート

〔大阪事務所 / 鮎子田 稔理〕

みかんの収穫が行われるこの季節、和歌山県下津町では、深い緑色・みかん色・青い海のコントラストが一層際だった美しさを見せています。ここでは、その下津町の特産品として注目のゼラート(アイスクリーム)のお話です。

下津町では、基幹産業であるみかんの他に、新しい果物の栽培にも取り組んでいて、その中の1つにチェリモヤがあります。チェリモヤという果物をご存知ですか？そのクリーミーな果実の由縁が別名「アイスクリームの木」とも呼ばれている高級フルーツです。下津町NF(ニューファーマー)研究会では、このチェリモヤをたくさんの人知ってもらい、下津町の特産品を育てていこうと、メンバー自身が試行錯誤を重ねて、今年8月ようやくチェリモヤのゼラートの販売にこぎつけました。

見た目は真っ白で、バニラアイスのように、食べてみると、クリーミーながらさっぱりとした味わい。私、残念ながら、果物としてのチェリモヤは食べたことがありませんが、きっと、こういうジューシーな味がするんだろうなと想像できるような気がします。その高級フルーツのゼラートが他のゼラートと同じ200円なのですから、「お得度も満点！」です。

「本当にここでゼラートが買えるのか？」と思えるような所に販売所があり、NF研究会のメンバーが交替で販売を行っています。みかんはもちろんのこと、柿やすももなど、素材の風味を活かしたゼラートもあります。自ら果実やゼラートの生産も販売も手



掛けるNF研究会のメンバーからは、下津のとおき情報も聞けるかもしれません。近くには釣り公園「シモツピア・ランド」もありますので、旬の魚と旬のゼラートを下津町で味わってみてはいかがでしょうか？ゼラートの味はNF研究会の腕にかかっていますが、釣果は貴方の腕にかかっていますので悪しからず。

ゼラートに関するお問い合わせは下津サニイエスト 073-492-6545

11月～2月までは販売所はお休み。問い合わせは岡室孝明 073-494-0786 まで
(宅配も可)

編集後記

アルパックのホームページを近日稼働します。ニュースレターのバックナンバーのページもありますので、是非アクセスして下さい。皆様のご意見・ご感想をお待ちしています。

URL : <http://www.arpak.co.jp>

E-mail : info@arpak.co.jp



沖縄に観覧車出現 ハンビー地区（北谷町）

〔大阪事務所 / 馬詰 建〕

最近、仕事で沖縄県（沖縄本島、石垣市等）に行くことが多くなりました。沖縄市の中心市街地（コザ、胡屋）を見た帰りに、返還軍用地の成功事例として注目されている隣の北谷町にあるハンビー地区に行って来ました。

沖縄市では中心市街地の活性化が大きな課題ですが、隣のハンビー地区では、海岸の整備とともにアメリカ風の街なみやコンセプトによる大規模ショッピングセンター、観覧車やシネコン、専門店、飲食店、フリーマーケットなどがあり、盛況のようです。

ハンビー地区は、1977年から返還が行われたアメリカ軍のキャンプ端慶覧の一部で、海沿いにあったハンビー飛行場の跡地利用です。建設省のコースタル・コミュニティ・ゾーン（CCZ）の事業認定も受け、土地地区画整理事業が行われた後に、現在のような商業部分などの開発が進みました。

CCZ事業では海岸部分に夕日の広場、野外ステージ、帆船の遊具、バスケットコート



などを備えた安良波公園が整備され、階段式のなぎさでは人工ビーチも計画されています。

沖縄市の中心市街地などは大きな影響を受けており、センター商店街では店舗・住宅の家賃を1年間全額補助する「沖縄移住計画ドリームショップグランプリ」などの取り組みが行われていますが、大規模ショッピングセンターの展開と中心市街地の空洞化という構図は沖縄でも同様のようです。また、ここでも観覧車の集客施設としての効果は高いんだなあと感じました。沖縄の海を展望できるこの観覧車に、機会があれば乗ってみたいかがでしょうか。



旧ハンビー飛行場（出典：沖縄タイムスホームページ）

アルパック (株) 地域計画建築研究所

- ・ 本 社 URL: <http://www.arpak.co.jp>
- ・ 京 都 事 務 所 〒 600-8007 京都市下京区四条通り高倉西入ル立売西町 82・大和銀行京都ビル 6F/TEL(075)221-5132 FAX(075)256-1764
- ・ 大 阪 事 務 所 〒 540-0001 大阪市中央区城見 1-4-70・住友生命 OBP プラザビル 15F/TEL(06)6942-5732 FAX(06)6941-7478
- ・ 名古屋事務所 〒 460-0008 名古屋市中区栄 3-18-1・ナディアパークビジネスセンタービル 13F/TEL(052)265-2401 FAX(052)249-3925
- ・ 東京事務所 〒 160-0011 東京都新宿区若葉 1-1・YT ビル 2F/TEL(03)3226-9130 FAX(03)3226-9560
- ・ 九州事務所 (株)よかネット 〒 810-0001 福岡市中央区天神 1-15-35・ホンダハビエ 5F/TEL(092)731-7671 FAX(092)731-7673